

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774200923		
法人名	社会福祉法人 慶徳会		
事業所名	グループホームふじい		
所在地	大阪府茨木市見付山1-3-29		
自己評価作成日	平成24年2月24日	評価結果市町村受理日	平成24年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

裏庭にある畑を活用して、四季折々の野菜を収穫している。農家出身の利用者もおり、タネ植えから収穫まで積極的に手伝って下さっている。また、農家出身でない方も、野菜の成長を見て気分転換をされたり、昔を懐かしんで会話をされている。現在、食事は、副食については業者に依頼しているが、ご飯と味噌汁は施設で作っている。そのため、収穫した野菜は、ご飯や味噌汁の食材として使用したり、おやつに召しあがっていたりしている。地域との交流も大切にしている。例えば、公民館で定期的に催されるサロンに参加したり、毎月、他のグループホームと、お互いのホームを行き来して交流を深めたり、茨木市内にある福祉科の高校生と交流をしたり、運営推進会議には、毎回、民生委員や介護相談員に参加していただけるよう努める等である。またボランティアも積極的に受け入れ、利用者には張りのある生活を送っていただけるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内特別養護老人ホームでの経験を持つ管理者と、全員非常勤ながら当ホーム開所当時から勤務する職員3~4名を有する介護職員とのチームワークの良さが、おだやかな雰囲気の日々を送る利用者の笑顔に表れている。共有ホールで出来ること・やりたいことに各々の姿勢で向き合う利用者を見守る職員、朝のラジオ体操・昼食前の嚥下体操・夕方のスクワットを毎日継続する利用者の力、隣設の小規模多機能型やデイサービス・特養の利用者と交流する機会での刺激など、当グループホームのもつケアの特性が随所に活かされている。医療連携体制は、重度化が避けられない利用者とその家族にとって、安心の大きな要となるであろう。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームふじい独自の理念を管理者も職員も十分に理解し、実践につないでいる。	「地域の結びつきを重視し、解放されたホームを目指す」の文言のある理念を確認しつつ、開所して12年の経験の振り返りを共有して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会や福祉委員会の行事等に参加し、交流を深めている。また、散歩をする際には、近隣の方々と挨拶を交わすなど地域の一員として生活している。	様々なかたちで地域との交流に努める一方、地域に在って12年の経験を活かした地域貢献「身近な福祉の拠点」を展開していきたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域が開催する行事に参加したり、同法人の養護施設の子供達との交流を通して、認知症に対する理解を深めていってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、開催している運営推進会議では、利用者・家族・介護相談員・福祉委員等に参加していただき、日々の取り組み等について意見交換を行い、その結果を謙虚に受け止め、サービスの向上に努める。	開催期と会議内容が報告事項だけでなく消防署員の講話や管理者の震災ボランティア体験談など多彩なことについては評価できない。それだけに、構成員の固定化と地域住民の参加が少ないことは残念である。	理念に言う「地域に根差し地域に開放されたホームを目指す」が言葉で終わらないためにも、地域住民の幅広い参加に向けての努力を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から市町村担当者と連絡を密にとるといことはないが、市役所の担当窓口とは、2か月に1度のグループホーム連絡会等に参加し、協力関係を築いている。	業務上の連絡・連携については、十分な関係性が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、身体拘束として禁止の対象になっている行為について把握はしている。ただ、ひたすら外を出歩く方がおられ、日に何度も玄関前に来られるため、身の安全の確保のため、玄関の施錠は行っている。	拘束については、身体だけでなく心・精神的拘束についても理解し、日常のケアに細心の注意を持って当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	一昨年は高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持っていたが、去年は持っていなかった。反省すべき点であり、今後、継続的に学ぶ機会を設け周知を図りたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者のなかでこういった事業や制度を必要としている方がいないため、積極的には学ぶ機会を設けていないが、必要に応じて学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時解約時等、利用者や家族に対して、話しやすい雰囲気作りに心がけ、不安や疑問等を伺って、じっくり説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1度、運営推進会議を設け、利用者・家族・福祉委員・介護相談員等に参加していただき、積極的に意見を話せる機会を設け、ケアプラン作成前にも家族の要望を聞き、運営に反映させている。	比較的に家族の訪問回数が多いことを活かし、気軽な会話から意見、要望を聞き取るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者を除いて全員非常勤職員であるため、敢えて運営に関する意見について聞くことはしないが、どんなことでも意見や提案を言いやすい雰囲気にはしている。	朝夕のミーティングや連絡帳での意見・提案は「まずやってみよう」と実行し、見直しを行うことで具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との日々のコミュニケーションから、職員一人一人の努力や勤務状況を把握している。また、各職員との個人面談を通して、日頃抱えている思いに耳を傾け、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じて、内外の研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問の機会としてのグループホーム交流会を毎月実施。情報交換等も行い、サービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーを中心として、本人が話しやすい雰囲気作りに努め、傾聴の姿勢を大切にし、安心して生活していただけるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、家族の不安や要望に耳を傾けつつ、当ホームでできることやできないことをお伝えしている。できないことについては、納得していただけるよう理由をきちんと説明し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、本人と家族等が必要としている支援を把握し、必要に応じて地域の社会資源を活用していただくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あらゆる生活場面において、利用者に主体的に生活していただき、職員はサポートに徹するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を預けたままにされないよう、「月便り」で家族に日々の生活状況を伝え、共に支援に協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には、本人が慣れ親しんできた物を置いていただいている。また、家族が来所しやすい雰囲気作りを心掛け、来所時には、時折、馴染みの場所へ連れていってもらっている。	入居してからの、ホーム内・ホーム外の新しい馴染み関係も大切にして、地域のつながりの中での暮らしを支援するとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が慣れるまでは、職員が間に入り、利用者同士の接点が見つかるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、関係を大切にし、希望があれば相談に乗り、入所の申し込みなど協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人との対話を大切にし、その人の思いを組み取るよう心がけている。意思疎通の困難な方については、本人本位に検討し、家族等本人の性格をよく知る方に相談することもある。	日々のコミュニケーションに重点を置き、利用者の遠慮を取り除く努力の中から、希望や意向をより正しく把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に話を伺って、左記の内容についての把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の支援をするなかで、日々どのように過ごされているかということや体調の変化を把握し、残存能力の活用に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来所しやすい雰囲気作りを心がけ、来所された折には、日々の様子をお伝えし、課題やケアについて話しあっている。本人とは普段の会話のなかから日々感じていることや要望をさりげなく伺い、介護計画に活かしている。	ケアマネジャーを中心にモニタリングを行い、日々の気づきも加えての介護計画を作成し、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別支援経過記録を設けており、左記の内容を記述し、また、連絡簿をとおして情報の共有を図り、実践や介護計画の見直しに使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険で定められているサービスに限らず、利用者や家族からのニーズがあれば対応可能かどうかを考慮し、できるだけ柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館等の文化行事に参加したり、様々なボランティアの協力を得ながら利用者1人1人が能力を活用し、主体的に暮らしを楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診について、本人や家族の希望を大切にしている。そして院内のソーシャルワーカーを介するなどして、かかりつけ医との連携を取ることに努めている。	特定のかかりつけ医、法人内診療所の医師との連絡・連携の下、健康管理、医療連携体制の強化については家族の同意を得て、十分な支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の状態観察のなかで得た情報や気づいたことを職場内の看護師に随時伝えて相談し、必要に応じて受診等している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際には、医療ソーシャルワーカーと密に連絡をとり、入院中の状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、ご家族が来苑された際に、普段の様子をお伝えしながら、折りを見て相談させていただいている。	看取りの経験はないが、医療ニーズへの対応、看取り対応について医療連携体制同意書、看取りに関する指針等の用意により、利用者・家族の安心と納得を得る取り組みがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行えていないため、反省しなければならない。緊急時に即座に対応できるよう今後は継続的に訓練を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度、避難訓練についてはあまりできていなかったため、改めなければならない。地域への協力体制についての呼びかけは、運営推進会議のときなどに随時行っている。	近隣に法人が有する福祉施設が複数あり、共同しての災害対策がとられている。備蓄関係については昨年の震災情報を活かすこと、地域協力体制については再検討したいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係ができてくると、敬語ばかりでは他人行儀に映るため、少し砕けた言い廻しも含めつつ、自尊心を大切に、またプライバシーにも配慮した言い廻しを心掛けている。	一人一人の個性を尊重しつつ、馴れに流されない親しさ、優しさでの声掛けや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の生活を支援する立場であり、主役は利用者であるため、本人の希望を大切に、発語の少ない方には表情等からくみ取り、選択肢を用意し選んでいただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やむを得ず職員側の都合を優先することも多々あるが、可能な限り一人一人のペースに沿うことができるよう努力はしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者やその家族から過去の生活様式について伺っているが、そのなかでオシャレについて、一人一人の好みを把握するよう心がけている。また、その人らしい身だしなみにも気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者一人一人の生活を支援する立場にあるため、一人一人の能力を引き出すよう心がけ、利用者と一緒に食事の準備や片付けをしている。	昼・夕は給食会社からの配食を利用し、おやつは季節や好みでの手作りを楽しんでいる。菜園の収穫物も朝食の具材や漬物で食卓を賑わしたいとし、検食からの意見は給食会に意見を出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の食事量や水分量を把握し、栄養のバランスを考慮した食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員支援のもと、口腔ケアを実施していただいている。また、毎食後には、義歯の洗浄・消毒を行っている。また、週に1度歯科衛生士による口腔ケア・検診も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗のある方については、時間を決めてトイレ誘導を行っている。排泄の自立に向けてサポートしすぎないように注意を払っている。	個々人の状態に合わせた、丁寧な、行き過ぎのない排泄介助が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、看護師に相談しながら、飲食物の工夫や適度な運動を行う等、個々に応じた予防をその都度行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回(月・水・金)午前中と一応は決めているが、そのとき入浴拒否があった方については、時間をずらす等臨機応変に対応している。一応決めておかなければ、行事等の予定を立てづらいため。	清潔保持が第一だが、「気持ちよかったお風呂」を心掛けている。入浴後の頭髪・顔・爪などへの手当でも丁寧に行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り夜間ぐっすり眠っていただき、日中は活動していただくよう心がけているが、日中、自ら居室ベッドで休まれている方については、しばらく休んでいただく等、その方が心地よく過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋を1つにまとめてファイルし、薬の目的や副作用、用法や用量について情報を共有できるようにし、また服薬の支援や症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴に合わせて趣味等楽しんでいただいている。また、掃除や食事の準備等で、一人一人の得意な部分を活かしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望を伺いつつ、可能な限り家族の協力を得ながら、散歩等外出できるよう支援に努めている。また、今年度中に車を購入するため、普段行けない場所にも希望を伺いながら行く予定をしている。	天候・季節・身体状況に合わせた外出に努めているが、それを十分とせず、車の購入を機に、外出の機会・場所を広げたいと意欲的である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その時々状況に応じて、スーパーへ買い物に行ったり、ホーム喫茶等に参加することを通して、職員は支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、事務所の電話を使用させていただいている。また、希望があれば、手紙のやり取りができるよう支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切に工夫している。各居室の表札は利用者の目の高さに合わせる等、見やすいように配慮している。	過剰にならない程度での利用者の作品等の飾りつけ、寛ぎの場の設定等、大きな家族の居場所を思わせる。開所12年の落ち着いた雰囲気は流石である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の居室はもちろんのこと、廊下のベンチやソファなどで、おもしろいおもしろい会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々、使い慣れた家具やお好きなものを持ちこんでいただき、落ち着いて過ごしていただいている。	基準以上の十分に広い居室に、それぞれの個性があふれる設えがあり、窓の外も自然が間近にあり、四季を通しての居心地の良さが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所の表示はわかりやすく、目の高さに設置している。また、廊下やトイレ等に手すりを設置している。		